



直心影流に関する研究

著者	軽米 克尊
学位授与大学	筑波大学 (University of Tsukuba)
学位授与年度	2013
報告番号	12102甲第6993号
URL	http://hdl.handle.net/2241/00122638

氏名（本籍） 軽米 克尊（千葉県）
 学位の種類 博士（体育科学）
 学位記番号 博甲第 6993 号
 学位授与年月 平成 26 年 3 月 25 日
 学位授与の要件 学位規則第 4 条第 1 項該当
 審査研究科 人間総合科学研究科
 学位論文題目 直心影流に関する研究

主	査	筑波大学教授	博士（体育科学）	酒井利信
副	査	筑波大学教授	博士（学術）	藤堂良明
副	査	筑波大学教授	教育学博士	清水 諭
副	査	神戸学院大学教授	博士（文学）	前林清和

論文の内容の要旨

本研究の目的は、直心影流という一剣術流派の伝承の様相を解明することである。

この目的を達成するために、直心影流がどのような人物を経て成立に至ったのかという「成立過程」、及び、いかに技術の修得がなされていたのかという「修練実態」の二点について考察を行った。本研究は、文献史料を読み込んで解釈することによりなされる文献研究である。主な史料は、直心影流の前身である直心正統流の『稽古法定序并理歌』『兵法雑記』や、直心影流の『靈剣略解』等である。

第 1 章では、直心影流がいかなる経緯を辿って成立したのか、また、成立後の主な分派について論じた。直心影流成立後の伝書においては、松本備前守が流祖とされているが、この人物は実際の成立過程と関係がなく、後世の書き換えによって付加されたことが明らかとなった。また、これ以降の伝承も、松本備前守の流儀が継承されていることを主張するため、部分的に書き換えられた。さらに、後世の伝承では、山田平左衛門光徳が直心影流を名乗ったとされているが、実際に直心影流を名乗った人物は、光徳の弟子・長沼四郎左衛門国郷であった。

第 2 章では、基本の形である法定について考察した。この形は 4 本から構成され、直心正統流の頃より「法定」と呼称されていた。直心正統流においては、法定の修行が二つの段階に分けられ、第一段階（初級）では身体面を重視し、身体と太刀筋の矯正がなされ、第二段階（中級）では「心行」という精神面に特化した修行が行われていたことが明らかとなった。

第 3 章では、しない打ち込み稽古の基本技術の形である十之形としない打ち込み稽古について考察を行った。十之形の特徴としては、①相手の様々な動作への対応、②しないを回して相手の打ち

を返し、打ち込む技術、③相手の打ちを抜いて避ける技術の三つが挙げられる。直心影流のしない打ち込み稽古の特徴としては、上段の構え、軽快な足遣い、仕掛け技、引いて打つ技の四つが挙げられる。これらの特徴は他流試合の描写に散見されるが、男谷精一郎一門対加藤田新陰流の試合においては、上記の十之形、しない打ち込み稽古の特徴を全く見ることはできなかった。

第4章では、近世後期における三つの分派（長沼派・藤川派・男谷派）の各試合・修練形態について、しない打ち込み稽古・形稽古、二つの修練方法から考察し、さらに各試合・修練形態を形成した一要因でもある剣術観についても論じた。その結果、各派に継承されている形の数異なること、しない打ち込み稽古において長沼・藤川両派が上段に構えていたのに対し、男谷派のみが精眼・下段に構えていたことが明らかとなった。この構えの相違については、男谷精一郎の剣術観が関係している。男谷は流名によって剣術を区別することを批判し、さらに、他流試合により自身の短所を改善しつつ、他流の長所を取り入れることを説いていた。そのため、自流の上段の構えにこだわることはなかったと考えられる。

本研究における考察の結果、直心影流の伝承について、大きく分けて二つの点が明らかになった。まず、成立過程に関しては、直心影流成立以降の伝書に記される伝承と実際の成立過程が異なっており、直心影流の成立時にそれまでの系譜を改変し、流派の起源として神話を付加しようとしたことが明らかとなった。主な改変の一つとしては、実際の成立過程に関係のない松本備前守を流祖としたことが挙げられる。これにより、鹿島の地ひいては武神タケミカヅチとの関係を確保し、この神の活躍する神話を精神的な拠り所にしようとしたといえ、この改変に日本文化の底層に存在する神道の思想が大きくはたらいっているといえる。これについては、後世、法定の出自が松本備前守と関連して語られるようになることから窺える。修練実態については、直心正統流の頃に形稽古としない打ち込み稽古を兼修する修練形態となって以降、形の種類の増減などはあるものの、どちらの修練方法も消滅することなく、後世まで続いていることが明らかとなった。これは、既存の文化をそのままにし、別の新しいものを取り入れることによって形成されてきた日本文化の存在様態をよく表しているといえる。

審査の結果の要旨

本研究の成果は、日本武道史上非常に重要な剣術流派である直心影流を取扱い、文献学的手法により、その成立過程および修練実態を明らかにしたものである。その結果、後世において語られる直心影流の成立過程が意図的に書き換えられたものであることを論証した点、形稽古・しない打ち込み稽古の兼修という修練実態の歴史的変容を明示した点で評価される。

又、最終的に先学が指摘する日本文化の重層性を踏まえつつ、直心影流剣術という身体運動文化を日本文化論の中に位置付けたところに大きなオリジナリティーを認めることができる。

平成26年1月14日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（体育科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。